DIARY

ドボベット® 軟膏/ドボベット® ゲル/
ドボベット® フォームを使用されている方へ

医師は患者さんの状態を確認したうえで、適したものを選択しています。
ドボベット®には軟膏、ゲル、フォームの3種類がありますが、いずれかを推奨するものではありません。ご使用の種類に関する部分をご確認ください。

年　　月 ～　　年　　月

レオ ファーマ株式会社　　協和キリン株式会社

DVT0242
MAT-44444
KKC-2021-00683-1
2021年6月作成
®登録商標

監修医からのメッセージ

ドボベット®軟膏/ドボベット®ゲル/ドボベット®フォームを使用されている方へ

監 修
帝京大学医学部 皮膚科学講座 准教授
鎌田 昌洋 先生

尋常性乾癬治療の効果には個人差があり、治療が長期間にわたることがありますが、毎日焦らずに根気よく続けることが大切です。

尋常性乾癬治療の塗り薬であるドボベット®は、医師の指示に従って使用することが治療の重要なポイントとなります。

このダイアリーは、ドボベット®の塗り方や、乾癬という病気について記載されているほか、治療の様子を書き込めるようになっています。お薬の使用状況、治療の経過、気になる症状、治療を続けていくうえでの不安なことや心配なことなどを記録していきましょう。尋常性乾癬に対し適切な治療を続けるために、1人で悩むのではなく、診察時に担当の医師と治療のゴールを立てたり、そのゴールに向けた治療について相談したりするためのノートとしても、このダイアリーをお役立てください。

担当の医師と十分なコミュニケーションを持ちながら、あなたが望む治療ゴールに向かって、一緒に治療を続けていきましょう。

ダイアリーの使い方

アドバイスを読む
➡ P.4～15

病気の概要や治療法、季節のアドバイスについて、分かりやすくまとめています。ドボベット®を塗る場所も記入しておきましょう。

毎日の治療を記録する
➡ P.16～29

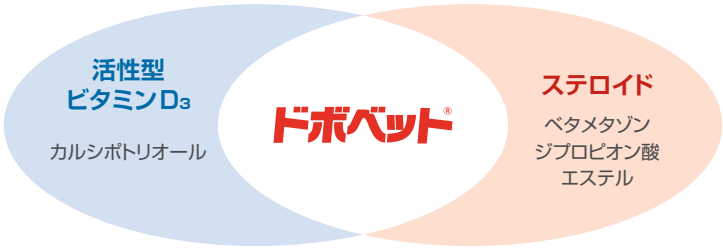
ドボベット®は医師の指示に従い、毎日塗り続けることが大切です。忘れないように記録しておきましょう。また、気になることがあればメモ欄に記入し、次回診察時に医師に伝えましょう。

ほかの病院を受診する場合も持参しましょう

尋常性乾癬以外の病気で治療する際、乾癬のお薬と相性が良くない場合があります。他科受診時には、このダイアリーを持参し、治療に差し支えがないか医師や薬剤師に相談しましょう。

ドボベット®とは

- 尋常性乾癬の治療に使用するお薬です。
- 活性型ビタミンD3とステロイドの2つの成分を1つに配合しています。
- ドボベット®は、水やアルコールを含まない油性製剤です。



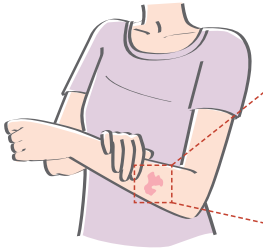
- ドボベット®には「ドボベット®軟膏」、「ドボベット®ゲル」、「ドボベット®フォーム」の3つの種類があります。

ドボベット®の塗り方

体部への塗り方

お薬は、強くこすらず、指や手のひらで優しく塗り広げます。

強く擦り込むと患部を刺激し、かゆみが出るなど症状が悪化する原因となることがあります。



皮疹部分がお薬で覆われるように適量を塗り広げることが大切です。

皮疹部分は盛り上がっていることから、薄く延ばし過ぎると、お薬の量が十分ではない可能性があります。

頭部への塗り方

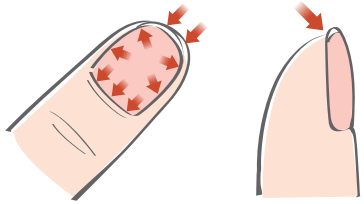
お薬を出す前に、皮疹の部分をよく広げておきましょう。

お薬を指に取ります。
容器から直接患部に塗ると、
適切な量を塗れないことがあります。

皮疹部分にのせるように、
優しく丁寧に塗ってください。

爪への塗り方

皮膚と爪の境目、爪の先や根元に入れ込むようにして塗ります。



ドボベット®の使い方

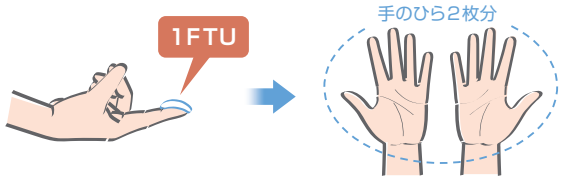
使用にあたっては、医師・薬剤師の指示に従ってください。

1日1回適量を患部に塗ってください。

以下を参考に、実際の患部の大きさに応じた量を取り出し、塗ってください。

ドボベット®軟膏

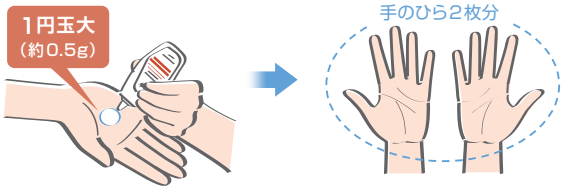
人差し指の先から第１関節までの量（1FTU※：約0.5g）で、手のひら２枚分（指を含む）の面積に塗ることができます。



ドボベット®ゲル

ご使用になる際は、最初に容器を振ってからお使いください。

１円玉大の量（約0.5g）で、手のひら２枚分（指を含む）の面積に塗ることができます。



- ☑ １週間に使用する量は、90gまでとしてください。
- ☑ 複数の種類のドボベット®をお使いの場合、すべての種類を合わせて１週間に90gを超えて使用できません。

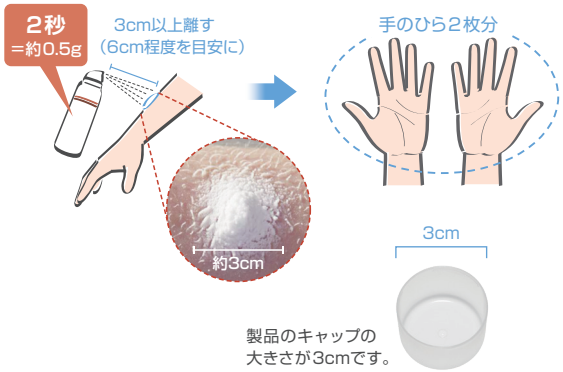
ドボベット®フォーム

ご使用になる際は、最初に容器を振ってから（数回）お使いください。

ボタンの真ん中を下まで押し切った状態で２秒間噴射した量（約0.5g）で、手のひら２枚分（指を含む）の面積に塗ることができます。

以下を参考に、患部の大きさに応じた量を患部に直接噴霧するか、一度手などに取ってから塗ってください。
※ひんやりすることがあります。

ドボベット®フォームだけを使っている場合は、５日で１本（60g）を超えて使用できません。



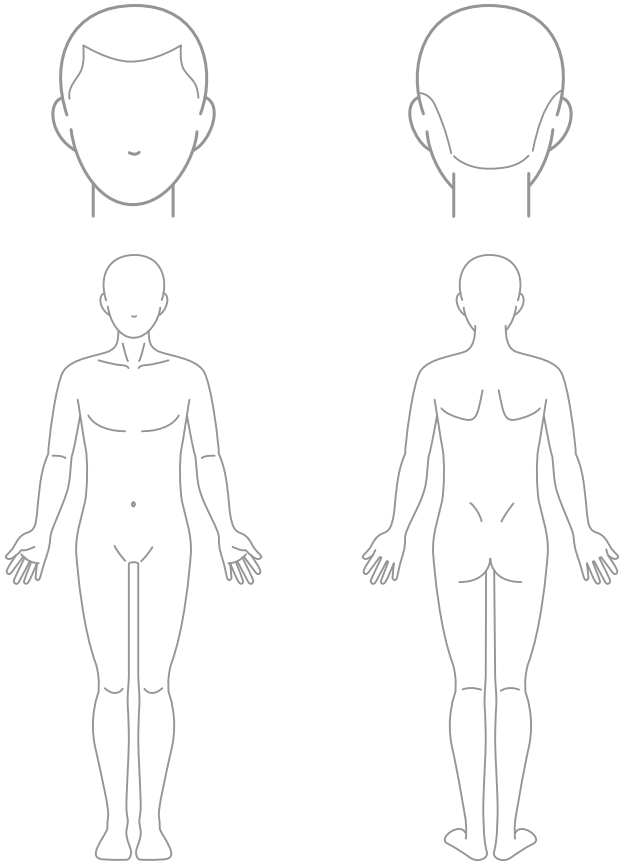
Webサイトでも、一部動画で使い方を詳しくご紹介しています

※ FTU：Finger Tip Unit（フィンガー チップ ユニット）[1]
外用薬の塗布量の目安となる単位。軟膏やクリームのチューブであれば人差し指の先から第１関節まで絞り出したときの量（約0.5gとして計算）で、手のひら２枚分（指を含む）の面積に塗布することができる。

1）Finlay AY. et al., Lancet. 1989；334（8655）：155.

ドボベット®軟膏を塗る場所

お薬を塗る場所に○印を付けましょう。

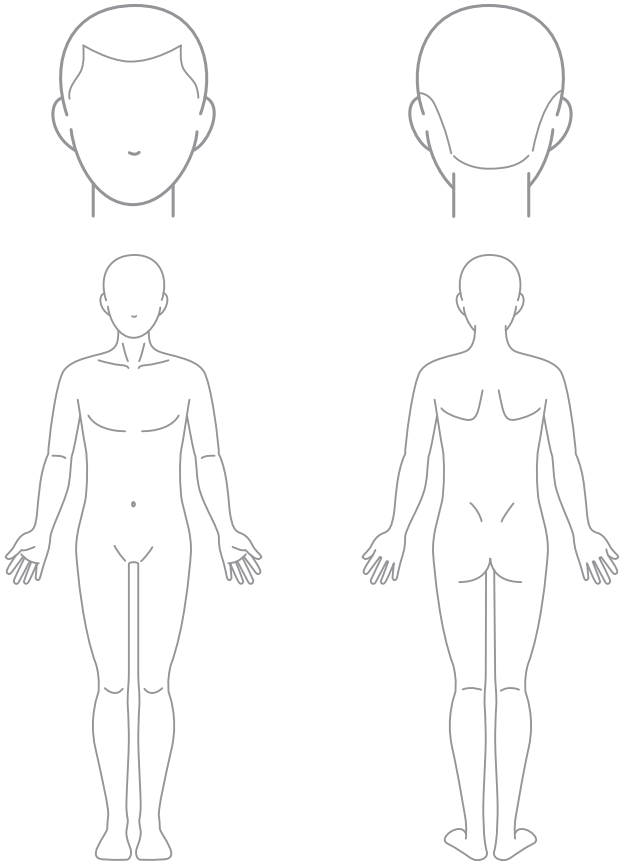


ドボベット®軟膏を使い始めた日

年　　月　　日

ドボベット®ゲルを塗る場所

お薬を塗る場所に○印を付けましょう。

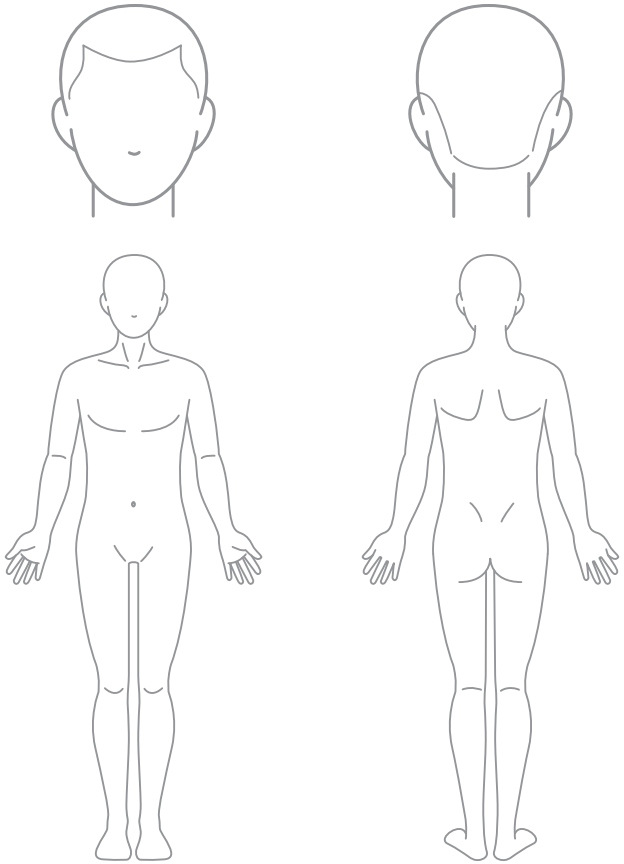


ドボベット®ゲルを使い始めた日

年　　月　　日

ドボベット®フォームを塗る場所

お薬を塗る場所に○印を付けましょう。



ドボベット®フォームを使い始めた日

年　　月　　日

ご使用にあたっての注意

注 意

- 患部以外には使用しないでください。
- 顔面の皮疹及び粘膜には使用しないでください。
- お薬を塗り終わった後は、手を優しく洗って、手についたお薬をきれいに洗い落としてください。
- 下記に当てはまる方は、医師・薬剤師にその旨をお伝えください。
  - ほかの病院または皮膚科以外の診療科にも通っている方
  - ほかに使っているお薬がある方
  - 高カルシウム血症になったことがある方
  - 腎臓の病気がある方、腎機能が低下している方
  - 妊婦または妊娠している可能性がある方、授乳中の方
- いつもと違う症状が現れたら、すぐに医師にお伝えください（かゆみ、腫れ、刺激症状、倦怠感、脱力感、食欲不振など）。
- 長期にわたって使用する場合は、定期的に医師の診察を受けましょう。
- 医療関係者の指示があった場合を除き、お薬を塗ったところをラップなどで覆うことはしないでください。
- このお薬をほかの人に渡さないでください。
- 頭皮などに塗る際に、目に入らないように注意してください。
- 必ず医師から指示された用法・用量を守ってご使用ください。
- 症状が良くなったり、コントロールできるようになっても、ご自身の判断でお薬を止めないでください。

保管について

- 小児の手の届かないところに保管してください。

ドボベット®軟膏/ドボベット®ゲル

- 光の当たる場所や低温となる場所を避け、キャップを閉めて室温で保管してください。

ドボベット®フォーム

- 可燃性の高圧ガスを使用した製品です。危険を避けるため次の点に十分注意してください。
  - 炎や火気の近くで使用しないでください。
  - 火気を使用している室内で大量に使用しないでください。
  - 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないでください（夏場：車内のダッシュボードなど、冬場：ストーブの前など）。
  - 火の中に入れないでください。
  - 使い切ってから捨ててください。

廃棄について

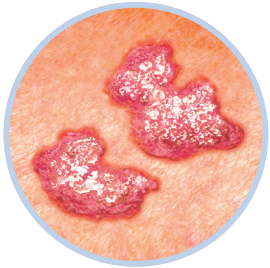
ドボベット®フォーム

- 中身を使い切ったうえで廃棄してください。
- 必ず火気のない通気性のよい戸外で、容器内に残っているガスを、シューという噴射音が完全に消えるまで出し切ってください。
- ガス抜き後、お住いの市町村等で決められた方法により廃棄してください。
- 製品のキャップ（プラスチック）は、缶（アルミニウム）とはずして分別してください。

乾癬について

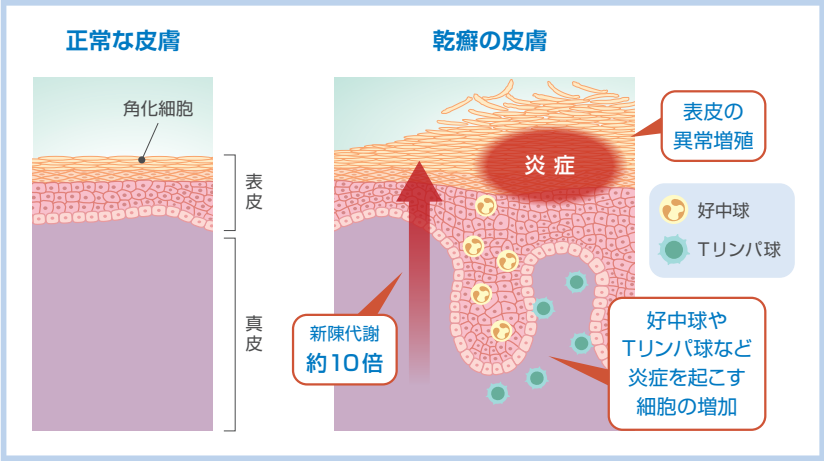
乾癬とは

皮膚が赤くなって盛り上がり、その皮膚が乾燥し、表面が銀白色の皮膚の粉で覆われ、ポロポロとはがれ落ちる病気です。ほかの人にうつることはありません。乾癬にはさまざまな病型がありますが、約９割が尋常性乾癬であるとされています[1)]。



乾癬の皮膚で起きていること

乾癬の皮膚では、炎症を起こす細胞が増加しています。そのため、皮膚が赤くなったり、盛り上がりが生じます。また、表皮が異常に増殖し、新陳代謝（皮膚の生まれ変わり）の速度が通常の約10倍速くなっています。そのことで、角化が亢進し、フケのようなものがポロポロとはがれ落ちていきます。

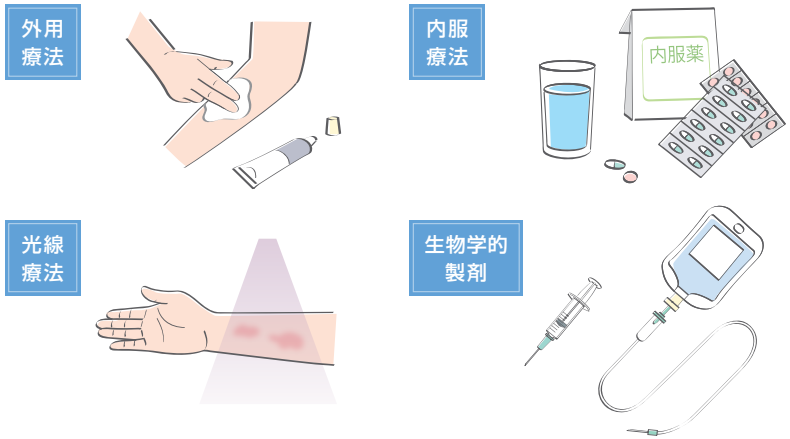


乾癬の症状が出やすい部位

乾癬の症状は全身のどこにでも現れますが、頭部や髪の生え際、膝、肘、腰まわりなど、こすれる部位に出やすいのが特徴です[2)]。はじめに頭部、下肢から症状が現れる方が多いとされています[1)]。

治療について

治療法には主に以下の4つがあります。乾癬の種類や症状、患者さんの条件（年齢や治療効果の期待度など）、治療の特徴（日常生活の制限や治療費用など）を考慮して、それぞれの患者さんに合った治療法が選択されます。



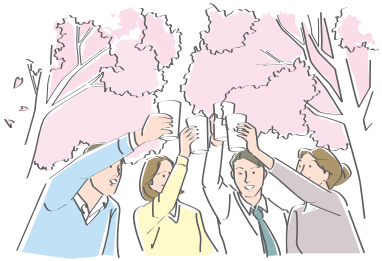
1) Takahashi H. et al., J Dermatol. 2011；38（12）：1125-1129.
2) 五十嵐敦之：尋常性乾癬とその鑑別疾患，古江増隆総編集，ここまでわかった乾癬の病態と治療，中山書店，87-93, 2012.

季節ごとのアドバイス

尋常性乾癬は、生活習慣や気温・湿度などの影響を受けやすい病気です。
季節ごとの日常生活のポイントをご紹介しますので、上手に症状をコントロールするための参考にしてください。

春

新しい生活が始まると、自分でも気づかないうちにストレスがたまることがあります。緊張感をほぐしリラックスするために、適度な気分転換を心がけましょう。歓送迎会のお誘いも増えるかもしれませんが、食べ過ぎ・飲み過ぎには気を付けましょう。



夏

湿度や温度が上昇し、汗をかくようになるので、通気性が良い服を選ぶなどの工夫をしましょう。夏は紫外線照射量が増え、症状が軽くなる[1)]と言われますが、急激な日焼けや発汗により皮疹が悪化する場合もあります。シャワーを小まめに浴び、患部を清潔にするよう努めましょう。

秋

過ごしやすく、食欲が高まる時期です。乾癬はメタボリックシンドロームとの関連が指摘されているため、カロリーの高いものはできるだけ控え、バランスの良い食事を楽しみましょう。一方で体を動かすのに良い時期でもあります。軽い運動を始めてみるのも良いでしょう。

冬

紫外線照射量が減り、ウールなどの衣服による刺激が増え、症状が悪化することが多い[1)]とされています。また、空気が乾燥するため、肌も乾きがちです。乾燥は症状の悪化につながるため、小まめに保湿するようにしましょう。

1) Park BS. et al., J Dermatol. 1998;25(2):97-102.

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

月

塗布したお薬の種類に○印を付けましょう

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

メモ　次の診察時に医師に伝えたいことなどを記入しましょう

メモ

担当医・連絡先

医療機関名